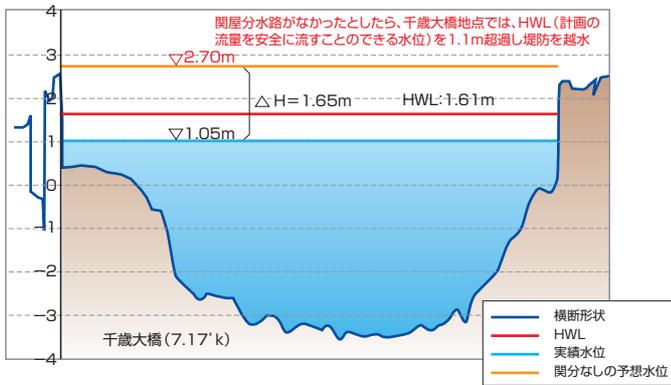
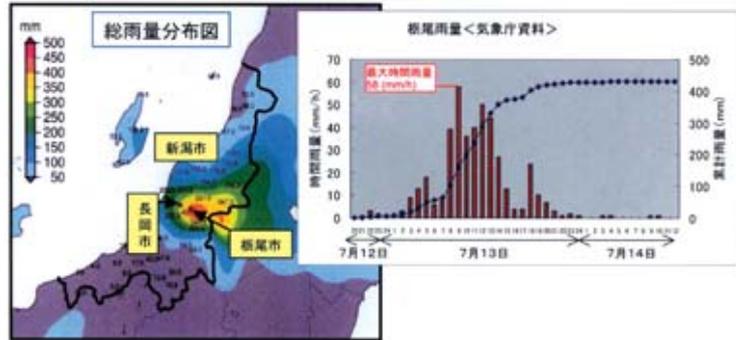


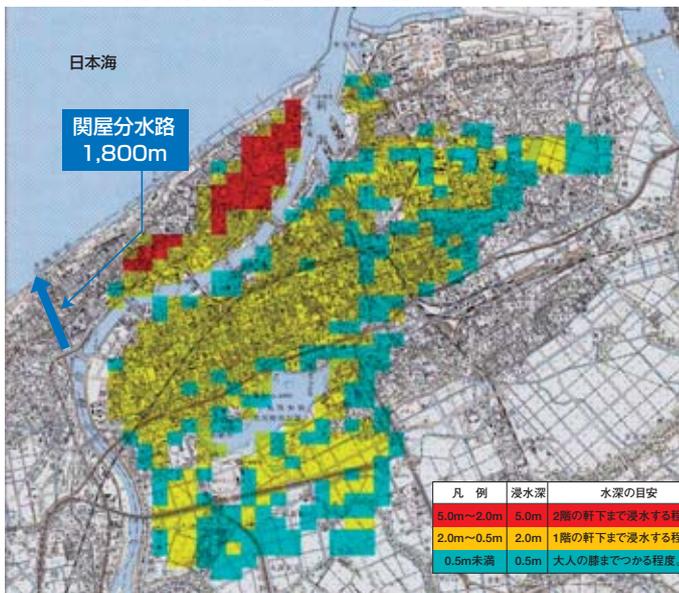
H16.7新潟・福島豪雨で関屋分水路がなかったら【関屋分水路事業の効果】

戦後最大となったH16.7新潟・福島豪雨の洪水でも、昭和39年（1964）から47年（1972）にかけて開削された関屋分水路により、県都・新潟市は洪水の被害を免れました。

平年の7月1ヶ月分の降水量を大きく上回る量がたった1日に降った



● 関屋分水路がなかった場合の浸水想定区域



※HWLを越えた時点で破堤する氾濫シミュレーション計算により、本川下流部の左右岸各1点で破堤した場合の1番大きい浸水範囲、浸水深を表しています。

● 想定される浸水被害

浸水面積 (ha)		床上浸水	床下浸水	被害額
宅地	農地			
約2,300	約800	約60,400戸	約15,300戸	約2兆円

関屋分水路が新潟市救った

北陸整備局信濃川下流河川事務所

7・13豪雨シミュレーション

総額2兆円の被害を防ぐ

床下・床上浸水7.5万户余

「1」は新潟市と福島県で、新潟市は洪水被害を免れた。これは関屋分水路があったおかげだ。関屋分水路がなかったら、新潟市は約7.5万户の床上・床下浸水被害に悩まされた。被害額は約2兆円に上ると推定されている。関屋分水路がなかったら、新潟市は約7.5万户の床上・床下浸水被害に悩まされた。被害額は約2兆円に上ると推定されている。関屋分水路がなかったら、新潟市は約7.5万户の床上・床下浸水被害に悩まされた。被害額は約2兆円に上ると推定されている。

